

防蟻・防湿シート工法 施工仕様書

- ベタ基礎編 -

●施工手順

-手順1-

碎石地業の転圧は振動コンパクターで充分に行います。

防蟻・防湿シートの破れ防止のため、特に木片は注意して取り除いておきます。



(図1：碎石敷き込み・転圧後)

-手順2-

・碎石転圧後、防蟻・防湿シートの敷き込みを行います。



(図2：防蟻・防湿シート敷き込み後)

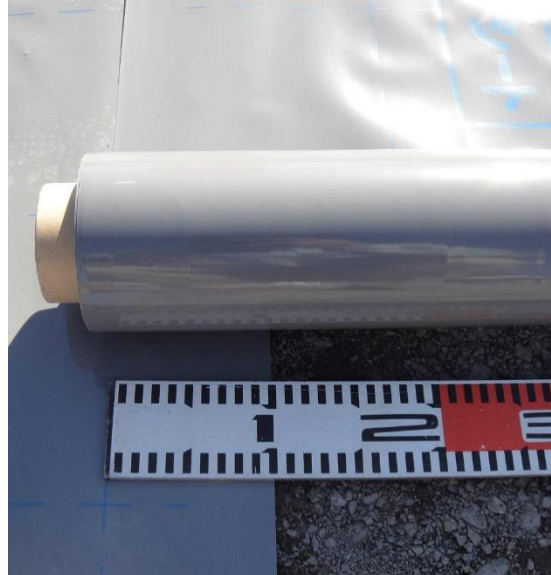
【防蟻・防湿シートの重ね代について】

防蟻・防湿シートは100mm以上の重ね代で敷き詰めます。

テープを重なり部分に施工します。

テープは全面に張っても良いですし、ポイントでの施工でも良いです。

※テープ施工に決まりはありません。施工し易い方法を選択してください。



(図3：重ね代の例 最低 100 mm以上)

－手順3－

- ・周囲を捨コンで止めます。

※重要①

防蟻・防湿シートは掘り方のバケット巾いっぱい敷きこみしてください。



(図4：敷き込み場所)

※重要②

防蟻・防湿シートを貫通する部分は補修用テープで補修してください。



(図 5 : 配管貫通部処理方法)

※重要③

必ず、防蟻・防湿シートの敷き込み後に捨てコンを行って下さい。



(図 6 : 捨てコン施工後の防蟻・防湿シート写真)

【防蟻・防湿シート 施工注意点】

コンクリートを流す範囲全てに施工します。

玄関ポーチ、勝手口、給湯器、ウッドデッキ等も含みます。

端部は出来るだけ張り伸ばします。（掘り方のバケット巾いっぱい）

※後打ち、増し打ち部分も施工してください。

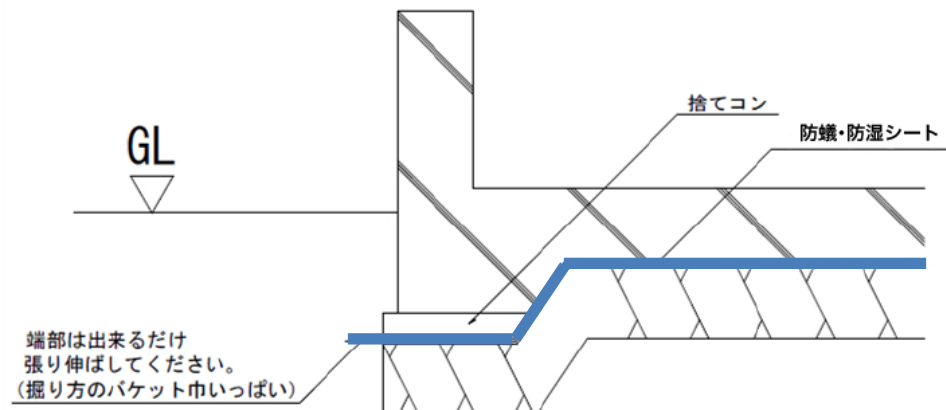
防蟻・防湿シート 施工後チェック項目

□防蟻・防湿シートに穴・破れはないか。⇒空いている場合、専用テープで補修。

※破れが大きい場合はシートを重ね張りしてテープでとめる。

□給排水管等により防蟻・防湿シートを貫通させていないか。⇒貫通させた場合は配管廻りと開口部を専用テープで補修する。

□深基礎の場合は深基礎部分を防蟻・防湿シートで破い込むように施工し露出部分がないか。



※施工後、防蟻・防湿シートの写真の撮影をお願いします。（防蟻保証適用申請時に必要の為。）